

第5学年3組 総合的な学習の時間学習指導案

指導者 梶原 直人

1 単元名 経済体験学習：スチューデント・シティ

2 単元観

○ 本単元は、限られた資金・資材を効果的に運用する手段を考え、それらの中から自己の知識や情報に基づいて正しく判断・選択・決定する力を身に付け、自己の意思で進路選択や将来設計を行う資質・能力を育成することが主なねらいである。

児童はこれまでに、将来の夢を叶えるために必要な事を学習し、将来と今を結び付けて考える力を身に付けている。

その上で、社会の仕組みや経済の働き、お金や仕事について学習し、自由経済社会を自らの判断で生き抜く力を身に付けることは大変意義がある。

また、本単元で学習した内容は第7学年で学習する生活設計体験学習とつながるため、将来の生活設計や社会の仕組みについて理解を深める上で大変重要である。

○ 学習内容の系統性

過去	第4学年「思いを知り、思いを伝えよう（二分の一成人式）」
現在	⇒本単元「経済体験学習：スチューデント・シティ」※
未来	⇒第7学年「生活設計体験学習：ファイナンス・パーク」※

※公益財団法人ジュニア・アチーブメント日本が提供する経済体験学習です。

3 単元の目標

- 社会のしくみや経済の働きなどを具体的に理解することができる。（知識及び技能）
- 市民としての自覚を持ち意思決定することができる。（思考力、判断力、表現力等）
- 社会との関わり方を意識して将来設計しようとする。（学びに向かう力、人間性等）

4 単元指導計画（全14時間）

次	時	○主な学習活動（内容）【●本時】	◇主な評価規準
一	1	○人はなぜ生きていくことができるのか考える。	◇社会と自分との関わりを考えることができる。【思・判・表】
	2	○生活とお金の関係、銀行の役割について考える。	◇銀行の役割を説明することができる。【思・判・表】
	3	○色々な仕事の役割と責任について考える。	◇「共存社会」の仕組みと仕事をする意義を理解することができる【知・技】
	4	○価格・コスト・利益の関係を考える。	◇モノやサービスの値段の決め方を理解することができる。【知・技】
	5	●ビジネスプラン作りの練習を行う。	◇会社の仕組みについて理解することができる。【知・技】
	6	○自分の会社のビジネスプランを作る。	◇ビジネスプランの作り方を理解することができる。【知・技】
	7	○スチューデント・シティへ行く準備をする。	◇仕事内容や電子マネーの使い方を考えることができる。【思・判・表】
二	8 ～ 13	○スチューデント・シティで体験活動を行う。	◇市民としての自覚を持ち、体験活動を行うことができる。【主体的】
三	14	○振り返りを行う。	◇学習したことをもとに、自分の将来について考えることができる。【主体的】

5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於：5年3組教室

(1) 主眼

- 会社が営業する上で必要な費用や利益の情報を整理・分析して、ビジネスプラン(ビジネスコスト表・ローン申請書)を作成することを通して、会社の仕組みを理解することができる。

(2) 展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)	配時
導入 【つかむ・見通す】	1 本時の課題をつかむ。 (1) 固定費や変動費を確認し、会社に必要な費用を考える。 (2) 本時では会社のビジネスプランを作ることを見通す。	「つかむ」段階 ○会社に必要な費用を考え、銀行から借りるお金を計算するという課題をつかむために、会社には様々な費用がかかることを確認する。 「見通す」段階 ○ビジネスプランの作成方法に見通しがもてるように、前時の学習内容を想起させる。	10
	めあて 会社のビジネスプランを作成し、会社の仕組みを考えよう。		
展開 【一人学び・学び合い】	2 会社のビジネスプランを作成する。 (1) ロイロノートを活用し、ビジネスプランの作成方法を確認する。 (2) ビジネスプランの作成方法を確認しながら、会社のビジネスプランを作成する。	「一人学び」の段階 ○ビジネスプランの作成方法が分かるように、何をすればよいのか、一つ一つの手順をロイロノートで確認できるようにしておく。 ○複雑な計算がスムーズにできるように、計算する際はタブレットの電卓を使用することを確認しておく。	10
	3 同じ会社毎のグループで、ビジネスプランを完成させる。	「学び合い」の段階 ○よりよいビジネスプランになるように、各自が作成したプランを比較しながら検討させる。 ◇会社のビジネスプランを作成することができる。(ワークシート)	15
終末 【まとめる】	4 本時のまとめをする。 (1) 本時の学習をまとめる。	「まとめる」段階 ○会社の仕組みを理解するために、費用と銀行の関係をまとめる。	10
	まとめ 会社には、人件費や固定費など様々な費用がかかる。必要な場合は銀行からお金を借りることで、その費用を支払う。		
	(2) 振り返りシートにリフレクションを記入する。	○単元を通じた振り返りシートを活用することで、単元全体の見通しをもたせ、学びの蓄積を自覚しながら、次時の学習への意欲をもたせる。	